

活断層見逃しの 現場をみる

—「敦賀」+「六ヶ所」 現地調査報告—



(敦賀原発内の活断層を調べる渡辺満久さん、中日新聞ウェブページより)

お話：渡辺満久さん
(東洋大学教授・変動地形学)

日時：6月10日(火)
18:30~20:30

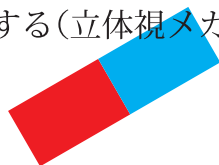
場所：総評会館 203 会議室

資料代：¥ 1000

原子力発電所の耐震設計審査指針(耐震指針)が2006年9月に改訂され、耐震安全性の再評価(バックチェック)が行われている。3月末に各電力会社から公表されたバックチェックの『中間報告』によれば、敦賀原発(日本原電)、もんじゅ(日本原子力研究開発機構)、美浜原発(関西電力)では、原発敷地直下に活断層があると確認された。中越沖地震によって「活断層隠し」が明らかになった柏崎刈羽原発をはじめ、今日まで国や電力会社が「活断層をさけて建設し、耐震安全性を確保している」と説明してきたことと、大きく矛盾する状態となっている。

渡辺先生のグループは敦賀原発の浦底断層、六ヶ所再処理工場の出土西方断層の現地調査を行い、断層調査の方法、評価手法、安全審査のシステムに大きな問題があると指摘している。これらの活断層は、国や事業者が言うように「安全審査当時の知見で分らなかった」のではない。

「活断層見逃しの現場」を解明する(立体視メガネで地形を解説)。



【主催】

原子力資料情報室

〒162-0065

東京都新宿区住吉町8-5 曙橋コーポ2階B

TEL: 03-3357-3800 FAX: 03-3357-3801

